

昭和43年度 和歌山県文化賞

たか がわ かく
高 川 格 (号 秀格)

住 所：東京都目黒区

出 身 地：和歌山県田辺市

生 年：大正4年

◎業績及び経歴

田辺市に生まれ、幼少の頃から碁を覚え、小学校4年生のとき大阪に移り、府立高津中学校に入学して間もなく初段となる。同校を卒業後光原伊太郎6段の門にはいり本格的に碁を学ぶ。その後、昭和10年に3段、15年に5段、20年には7段に昇段し、ついに昭和27年、当時の橋本本因坊と対局して第7期本因坊の地位を得て「秀格」と号した。ときに36才であった。以来、木谷、杉内、藤沢の諸氏と対局して昭和36年にいたるまで連続9期本因坊維持という囲碁界における新記録を樹立した。その間、29年8段、35年9段に進み、39年には日本棋院創立40周年を記念して「名誉本因坊」に推され、翌40年には第4期10段位戦で「10段位」を獲得、本年10月には第7期名人戦で林名人・本因坊と対局して「名人位」も獲得、名実ともに囲碁界の第一人者となる。

氏は「常に体調をととのえてよく自分の碁を反省し、奇手妙手がなくとも一石一石を慎重に打ち、総平均点で勝て」と教えているが、人生の指針としてもまことに示唆深いものがある。

著書は「基本定石集」、「碁を始める人の為に」、「高川囲碁読本」、「現代の各局」等50数冊におよぶが、これらの著作によって囲碁の普及発展に尽した功績もまた大きい。